

第3回 富山広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 議事要旨

日 時：令和元年10月30日（水） 10：00～11：15

場 所：富山市役所 東館8階 801会議室

出席委員：（順不同）

舘 良一	株式会社シー・エー・ピー 代表取締役会長
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部 教授 【座長】
中田 邦彦	富山地方鉄道株式会社 専務取締役
中村 和之	富山大学 副学長 【座長代理】
森永 達也	富山公共職業安定所 所長
吉田 守一	株式会社日本政策投資銀行富山事務所 所長
今家 英明	滑川商工会議所 会頭
山西 潤一	富山大学 名誉教授
永長 信行	社会福祉法人中新川福社会 理事長
伊井 謙治	上市町体育協会 会長
酒井 重人	上市町区長協議会 会長
高見 政次	立山町東谷地区自治振興会 会長
銚井 文明	雄山中学校 PTA 顧問（富山県 PTA 連合会 副会長）

オブザーバー

牧野 裕亮	地域振興・中山間対策室地域振興課 課長
-------	---------------------

議事内容：

1. 開会

○委員改選に伴う座長の選任については、「富山広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱」第4条第1項の規定により、長尾治明委員が選任された。座長代理は同要綱第4条第2項の規定により、座長が中村委員を指名した。

2. 資料説明

○資料1～4に基づき「連携事業及び成果指標（KPI）の実績について」、資料5-1、2に基づき「富山広域連携中枢都市圏ビジョンの改訂（案）について」を事務局より説明した。

意見交換

（委員）

- ・有害鳥獣の農作物被害対策ということで、イノシシとだけ記載されているが、クマは含めないのか。

⇒（事務局）

- ・農作物に対する被害ということで、クマはほとんど農作物に被害を及ぼすことはないと考え
ることから含めていない。

（委員）

- ・イノシシだけでなく、サルや鳥の被害についても考慮していくべきである。

⇒（事務局）

- ・連携市町村の各担当課による連絡会議では、イノシシだけでなく、サルやカラスなどについ
ても情報共有している。先ほど話に出たクマについても、出没時の連絡体制を整えている。

（委員）

- ・大学でもこれまで3回クマが現れており、市役所の担当者からクマ出没時の翌日に注意を促し
てもらっている。お互いに情報のやり取りを密にしている。3日前も道路で職員がクマを見か
けている。学生への影響が心配である。連絡会議で検討しているということで、今後も継続し
てもらえればと考える。

（委員）

- ・舟橋村では、セイタカアワダチソウが外来種として問題となっており、市町村ではあまり話題
にならないが、広域的な対応が必要だと考える。

（委員）

- ・富山駅周辺整備が進み、南北も接続され、交通網の利便性は高まると思うが、若者が賑わう場
所、エリアについてはどのように考えているか。具体的な施策などはあるのか。交通網だけが
便利になっても、歩行者数は増えないと考える。
- ・TOYAMA キラリを活用した教育普及事業について、富山市は普及率が高いが、他の市町村が低
いのではないかと。滑川市は7校あるはずだが、2校になっている。予算などの関係か。

⇒（事務局）

- ・1点目について。来年3月の南北接続によって、人の流れは大きく変わる。駅の北側のオーク
スの前に新駅もできる。また、およそ3年後にはオーバードホールの北側に700席の中規
模ホールが整備される計画がある。本市では、駅北エリアをどうしていくか検討しており、
特にブルーバールをいかに活性化していくかということを考えている。行政だけでなく、駅
北の立地企業、例えば北陸電力やインテック、KNB、カナルパークホテルの方々などを交え
て、エリアマネジメントの観点から検討を始めたところである。
- ・2点目のキラリについて。キラリに来られる際の入館料は無料となっているが、キラリまで
のバス代は負担してもらっている。内訳を見てみると、同じ学校が来ているところもあれば、
違う学校が順繰り来ているところもある。事情を聞いてみると、校外学習で本事業を利用す
るところが多く、例年校外学習の場所が決まっているところは、なかなか来てもらえない。

(委員)

- ・若者は駅前より離れたところに行ってしまうというように感じる。

(委員)

- ・今の意見に加えて、アイデアを提案したい。人の動きをどれだけ活発にするかということがポイントになると思うが、地域内のお店などで使える地域通貨のようなポイントを貯める仕組みを活用してはどうか。例えば、災害などのボランティアに参加した人に付与されるようなものであれば、面白い動きが出てくると思う。

⇒ (事務局)

- ・まさに明日11月1日から市民の歩くライフスタイルへの転換を目指す新しい取組として、「とほ活」という、歩いてポイントを貯める取組を開始する。また、イベント会場に行ったり、公共交通を利用すると、そこでもポイントが付与されるという仕組みになっている。買い物ができるわけではないので、地域通貨とは少し異なるが、ポイントで景品が当たるということで、地域の活性化につながるものと考えている。

(委員)

- ・広島市で上手く動かしている事例があるので、ぜひ参考にしてもらいたい。

(委員)

- ・立山町では、すでに自治体ポイント制度を10月にスタートしている。将来的に、これが広域連携できるようになれば、動きが広がるものとする。

(委員)

- ・資料3のKPIについて。達成しているKPIは今後どうするのかというのが1点。滞在型観光ということであれば、宿泊者数の数値を活用することも考えられる。また、鉄道駅利用客数については、南北接続もあるので、現状よりも高くなるのではないかと。歩行者数については、天候によって数字が大きく影響されるというのは、KPIの数値としてあまりふさわしくないのではないかと。

⇒ (事務局)

- ・全体のKPIの考え方について、状態を維持することに主眼を置いている。単年度の数字であるので、上がり下がりはあるものと考えており、5年間でならして、ある程度の水準を維持することを目標としている。
- ・5年間のすべてが悪天候ということはないと考えており、5年間の平均でどうなるかということを見ていく考えである。

(委員)

- ・ KPI について、資料3の指標⑥、⑦が微減しているが、ここを増やさなければいけない。圏域で取り組むべきである。圏域での暮らしやすさをもっと PR する必要がある。圏域をまとめた観光のパンフレットは奥行きのある良いものになっている。また、学生の就職には親の意向が強く、親世代への PR も効果があるものとする。
- ・ 公共交通の利用者数は増えており、明るい材料である。富山駅が拠点となり、圏域の移動も活発になるものとする。

⇒ (事務局)

- ・ 暮らしの PR については、観光と違った視点で検討していきたい。親世代への PR としては、昨年度、富山で働くことを PR するガイドブック「ありだね！」という冊子を PTA の会合で広報している。こういったものも圏域を含めて検討したい。富山大学とも連携していきたい。

(委員)

- ・ 資料5-2のビジョン改訂版(案)のP41の有害鳥獣農作物被害対策事業の実績と予算が0となっているが、なぜなのか。
- ・ 豚コレラが新聞記事を騒がせているが、立山町ではイノシシを遠くの山奥に行き、手間をかけて埋設している。せっきかくこういう広域の連携があるので、鳥獣専門の処分場、焼却炉についての検討をどのように考えているかお聞きしたい。

⇒ (事務局)

- ・ 会議費用や事務的経費なので、費用をかけずに活動している状況であり、活動をしてないわけではない。
- ・ 埋設場所については、富山市でも問題となっている。
- ・ 焼却施設などについては、広域的なものがよいかなど、今後も検討が必要だと認識している。

(委員)

- ・ KPI のところで、被保険者数について触れていただいたが、数字が増えている背景として、高齢者の方々の就業が進み、高齢者の適用範囲が広がっていることが要因の一つとなっている。人手不足といわれる中で、高齢者の技術を活かし、活躍できるような場を作るため、シルバー人材センターなどを含めて、いろいろな機関で協力していくことが必要だと考える。
- ・ 一方で、若者の U ターン就職などについてもハローワークで関わっているところであるが、各県、各地方・首都圏で取り合いになっており、魅力的な労働条件に流れがちである。前段の話にあった暮らしやすさや地域の魅力を伝えるために PR が重要である。ハローワークでは組みにくい面もあるため、民間や自治体で効果的にやってもらえると良いと考える。

(委員)

- ・ 来年、市内電車とライトレールで南北接続するということが、非常にインパクトは大きいものとするが、このような大きなことがある場合、指数は調整されるのか。

- ・企業の中で、雇用も担当しているが、求人を出しても人が来てくれない。学生は、求人している数の半分くらいしかとれない。昨年くらいから極端に悪くなっている。このような状況も把握すべきではないか。有効求人倍率が高いということも考慮すべきだと考える。

(委員)

- ・有効求人倍率が高いということで、ここ1、2年だと思うが、就職相談を早めているところが増えている。名称を変えて、具体的には面接のような形でやっている。有効求人倍率が悪くなった場合に、企業がどのような対応をするのかということが大学でも心配の種となっている。

⇒ (事務局)

- ・今のところ、特殊なイベントがあったからといって、どうするというようなことは考えていない。基本的に指数は変更しないものとする。
- ・求人について、そのような状況は承知している。できるだけ若い人に残ってもらえるよう、行政として出来る限りのことをやっていく。
- ・補足で、富山市役所の応募状況であるが、東京関西の私大の学生はほとんど受けに来なくなった。やはり東京関西で早々に就職が決まってしまう。受験者は富山大学が最も多いが、そのうち県外出身の学生の受験が多くなってきた。この傾向については、これまで富山市長が富山大学や国際大学において、コンパクトシティ政策に関する講演を行っているが、この講演から富山市が住みやすいと感じてもらっていることが一つの要因だと考えている。
- ・昨年からはじめた事業であるが、県外出身の学生が富山市に住民票を移し、運転免許証を取りに行った場合に、3万円を補助するという取組を行っている。1年生に限っているが。富山市民になってもらって、富山市に愛着を持ってもらう目的であり、県外学生の定着につながることを期待している。

(委員)

- ・二次救急医療体制の確保の取組は非常にありがたく、これからも推進してもらいたい。一方で、国からは病院の統合について不安を煽るような情報があるが、こういった医療体制をこれからも継続していくんだというアピールがあってもいいのではないかと。

⇒ (事務局)

- ・医療圏については県や国ベースの話となるが、圏域としてはこれからもこの医療体制を確保すると掲げている。

(委員)

- ・舟橋村では本年3月に先生が高齢のため、内科クリニックを閉鎖した。これにより村の中に医者がない状況になった。舟橋村としては、面積が小さく、近隣との距離が近くなっている。県立病院や上市総合病院まで約20分で行ける。これからも広域な連携をお願いしたい。

(オブザーバー)

- ・ 1年を通して初めての実績が出てきた段階であるが、事業の **KPI** を見ると、相当成果が出てきているものとする。さまざまな課題や提言があったが、こういった中で、戦略的、広域的に取り組んだら良いものについて引き続き検討してもらえればと思う。
- ・ 広域的なものとして、県は本年 **SDG s** に選定されているが、圏域内では富山市でも昨年選定されており、**SDG s** という新たな分野での連携もさらに進むことを期待している。
- ・ この連携中枢都市圏の取組に対する国の財政支援の安定確保について、県の重要要望として、国に要望している。
- ・ 地域間の連携を推進するため、県単独ではあるが、市町村連携推進モデル事業という支援措置を設けている。県としてもこの取組を後押ししていきたいと考えている。

(座長)

- ・ 各委員から忌憚のない意見をいただいたので、事務局で整理をしていただきたい。また、連携を通して課題等に対する提案があれば検討していただきたい。